

防災・防犯情報を街中に伝える!  
**街かど安心安全ラジオ**

**防災・防犯ラジオ付き自動販売機**

# 飲む防災® 飲む防犯®

地域の災害に関する緊急情報や、防犯に関するお知らせが自動的に放送されます。



## 防災情報

地震や津波などの緊急情報をお知らせする他、行政からの避難所情報、物資情報など災害発生後から復旧までの細やかな情報を放送します。



## 火事・事故・事件



消防署からの火災情報、警察からの重大事故、事件なども放送。

## 公共交通機関の運行状況

大きな災害時に電車バスなどの運行情報を放送することで、帰宅困難者を誘導することができます。

## 防犯・不審者情報

防災だけでなく、防犯に関するお知らせを街かどに放送します。例えば、不審者目撃情報を放送することで、街行く人へ注意を促すとともに、犯人に対して抑止力にも繋がります。



## お年寄りや子どもの行方不明情報

認知症による行方不明者は、見つかるまでの時間が生死の分かれ目です。近隣の人に不明者の情報を伝え、早期発見に繋がります。



お問い合わせなどお気軽にご連絡ください。

株式会社 鈴鹿コミュニティー ☎ 059-375-2255

〒513-0825 三重県鈴鹿市住吉町8947

FAX: 059-375-6633

URL <http://nomu-bb.com/>

E-mail [info@nomu-bb.com](mailto:info@nomu-bb.com)



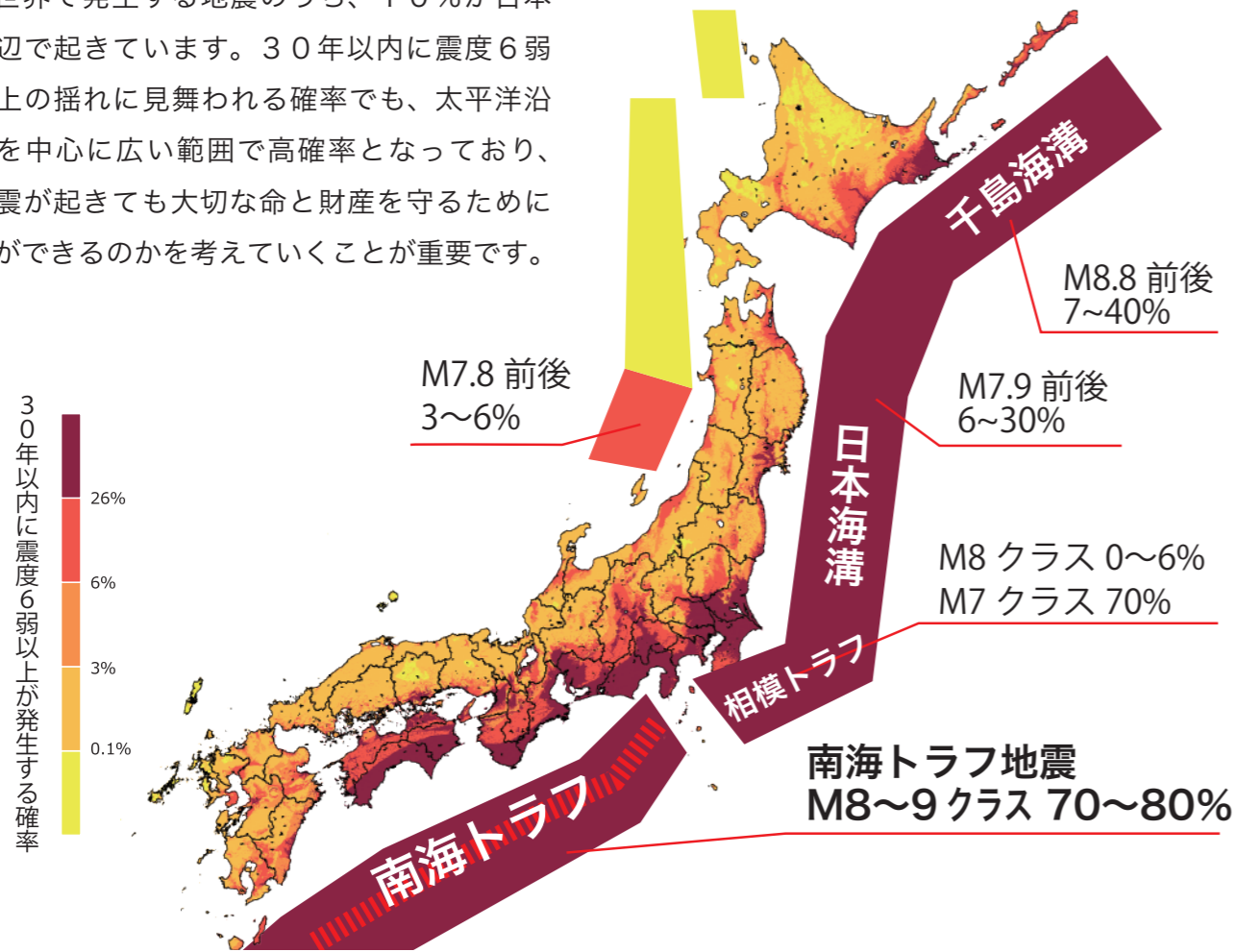
## 紹介動画

こちらから説明動画  
をご覧頂けます  
(約3分半)

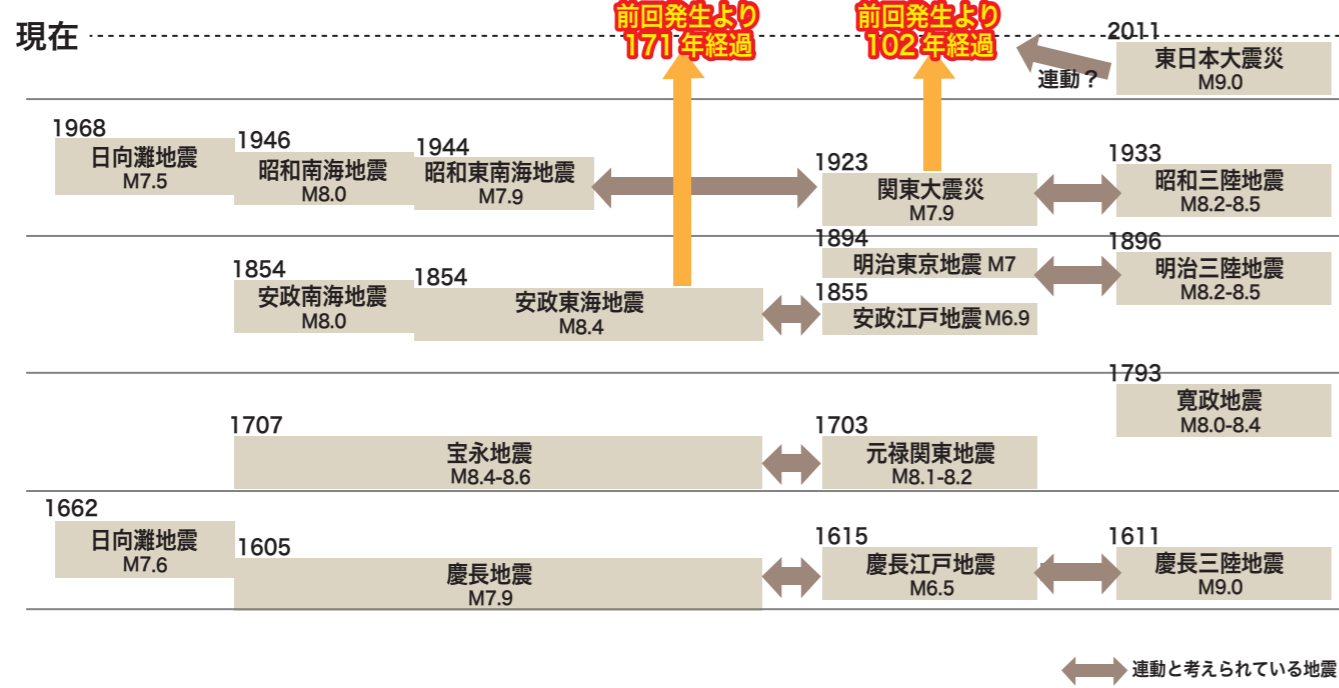


# 災害の多い日本

世界で発生する地震のうち、10%が日本周辺で起きています。30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率でも、太平洋沿岸を中心に広い範囲で高確率となっており、地震が起きても大切な命と財産を守るために何が出来るのかを考えていくことが重要です。



日向灘 南海 東南海 東海 首都圏 東日本



# 新聞・メディアにも取り上げられました

## 聞く

### 街の自販機から緊急時放送



鈴鹿ヴォイスFM運営会社社長 加藤 正彦さん

鈴鹿市のコミュニティFMラジオ局「鈴鹿ヴォイスFM」が、災害や防犯に役立つ情報発信するラジオ付自動販売機を発売し、設置拡大の取り組みを本格化した。飲料販売と同時に、安心・安全につながる放送をする、社会貢献を兼ねた新たなビジネスモデル。全国のコミュニティ局から問い合わせが相次ぐ。開発の経緯や展望を、同局を運営する「鈴鹿メディアパル」の加藤正彦社長(左)に聞いた。

―自販機の特徴と利点

自販機上部に受信機を備え、災害時の物資や交通機関、道路の状況をはじめ、不審者や火災への注意喚起、行方不明者捜索の協力依頼など、役所や警察、消防からの情報を発信する。飲料の売上金の一部がメーカーから局に支払われ、自販機設置には手数料が入る。

―1月下旬の発表から四月経過。手応えは。

東海地区の九局を含む全国のコミュニティ局十一局の意向を得て設置拡大を図っている。毎日のように問い合わせがあり、北海道から沖縄まで局の代表者が集まる協議会などに当社の緊急時放送を伝える方法がないか考えた。電文通信がない地域でも、自販機は設置できる。街で緊急情報を届けるツールへの理解が、災害に強い地域づくりへの関心の高さを感ずり、やりがいは大きい。

―なぜ自販機に着目した。

東海地区の九局を含む全国のコミュニティ局十一局の意向を得て設置拡大を図っている。毎日のように問い合わせがあり、北海道から沖縄まで局の代表者が集まる協議会などに当社の緊急時放送を伝える方法がないか考えた。電文通信がない地域でも、自販機は設置できる。街で緊急情報を届けるツールへの理解が、災害に強い地域づくりへの関心の高さを感ずり、やりがいは大きい。

緊急時に屋外で情報を受ける手段として、自販機は、導入場所の選定を進めたい。

―全国に呼び掛ける意味合いは。

放送局が狭いコミュニティ局は全国に三百ほどあるが、広告収入は限られる。地域の安心・安全をサポートする役割を担う新たなビジネスモデルとして全国の局へ働き掛けを強める。三年後に東京五輪・パラリンピックを控える。設備が広がり、世界でも治安が良くなる日本のイメージアップに貢献できればうれしい。

―かみ・ま(2017)1900生まれ。不動産業などを経て、2015年から鈴鹿メディアパル代表取締役社長。全国のコミュニティ局で組織する「日本コミュニティ放送協会」の東海地区監事も務める。

## ラジオでいのちを守る

三重版

柏葉あじさい

無所属 奥山鈴津子 (津市高茶屋)

三重総局(〒514-0005) 津市鳥居町2-27-2  
FAX 059(228)2121~4

四日市支局 059(352)3108  
FAX 059(353)7239

伊勢支局 059(23)3511  
FAX 059(23)3521

松阪支局 059(21)6148  
FAX 059(26)2207

伊賀支局 059(21)3241  
FAX 059(24)4310

尾鷲支局 059(22)0192  
FAX 059(23)0771

鈴鹿通信部 059(382)0314  
FAX 059(382)3969

桑名通信部 059(22)0235  
FAX 059(23)0771

鳥羽通信部 059(25)2063  
FAX 059(25)2090

熊野通信部 059(85)2263  
FAX 059(89)4801

亀山通信部 059(82)0169  
FAX 059(82)0970

名張通信部 059(63)0541  
FAX 059(64)0146

菟俣通信部 059(38)4158  
FAX 059(39)5064

志摩通信部 059(43)0154  
FAX 059(44)0028

紀伊勢通信部 059(47)0724  
FAX 059(47)1487

新宮支局 0735(21)3737  
FAX 0735(21)3738

ニュース上の電話へ  
読者センター 052(221)0800

広告のお申し込みは  
広告局三重アドセンターへ  
津 059(221)2530

平安齋 齋奉閣  
0120-999-444

6/25(日)10:00~14:00  
徳川青森閣 西園寺学会

から沖縄まで局の代表者が集まる協議会などに当社の緊急時放送を伝える方法がないか考えた。電文通信がない地域でも、自販機は設置できる。街で緊急情報を届けるツールへの理解が、災害に強い地域づくりへの関心の高さを感ずり、やりがいは大きい。

緊急時に屋外で情報を受ける手段として、自販機は、導入場所の選定を進めたい。

―全国に呼び掛ける意味合いは。

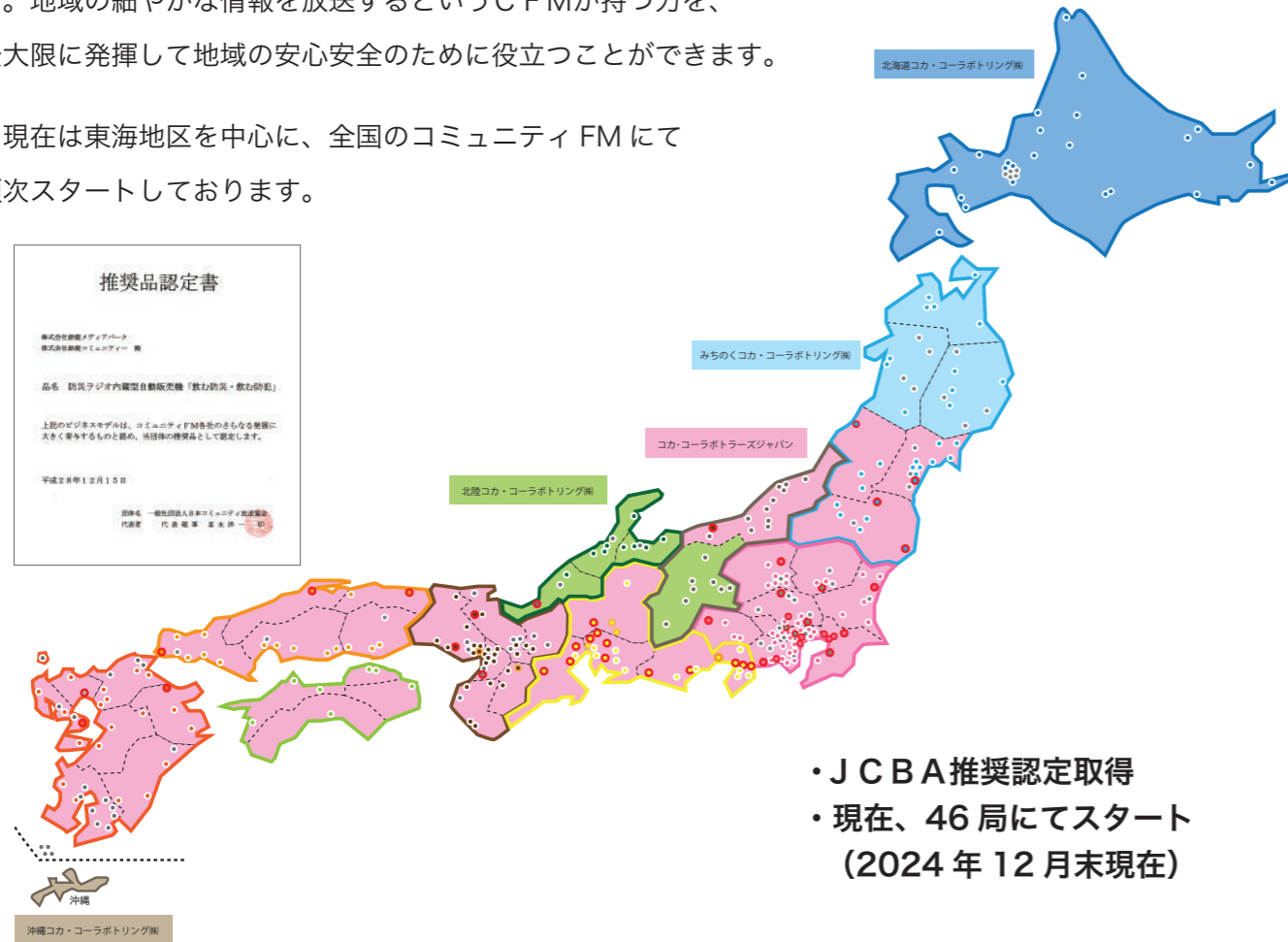
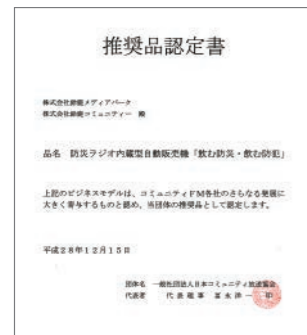
放送局が狭いコミュニティ局は全国に三百ほどあるが、広告収入は限られる。地域の安心・安全をサポートする役割を担う新たなビジネスモデルとして全国の局へ働き掛けを強める。三年後に東京五輪・パラリンピックを控える。設備が広がり、世界でも治安が良くなる日本のイメージアップに貢献できればうれしい。



# 全国にてスタート

この飲む防災・飲む防犯事業は、日本コミュニティ放送協会（JCBA）の推奨認定も取得しています。今まで伝えきれなかった街角へのお知らせ放送により、各CFMが地域の安心安全に大きく寄与できます。地域の細やかな情報を放送するというCFMが持つ力を、最大限に発揮して地域の安心安全のために役立つことができます。

現在は東海地区を中心に、全国のコミュニティFMにて順次スタートしております。



## 全システムに対応可能

すでに防災ラジオが導入されている局であっても、すべての防災ラジオシステムに対応可能です。

- DTMF方式の受信機導入済み ⇒ 全てのシステムに対応可能
- Comf i s型も導入予定



メディアトライ製



リズム時計工業製

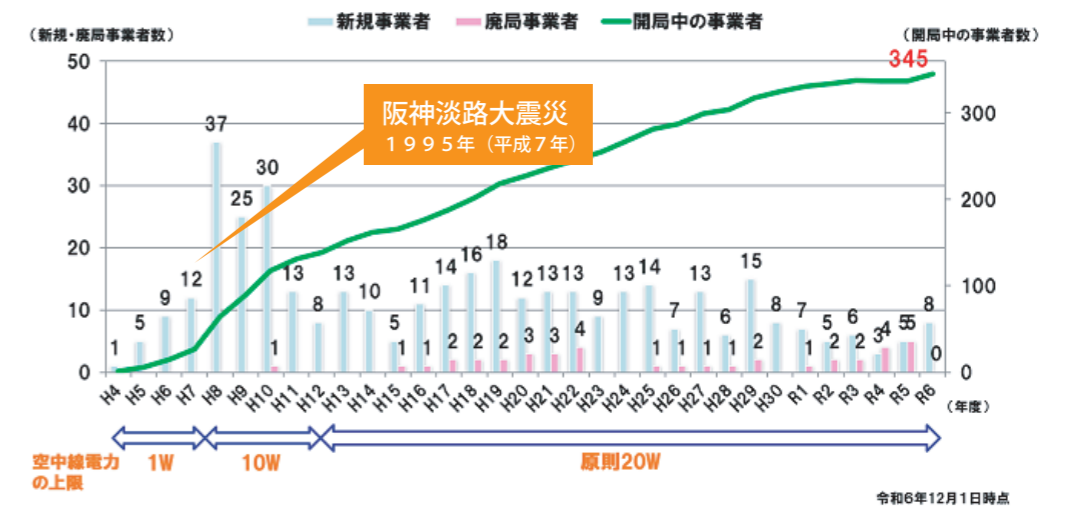


Comf i s型

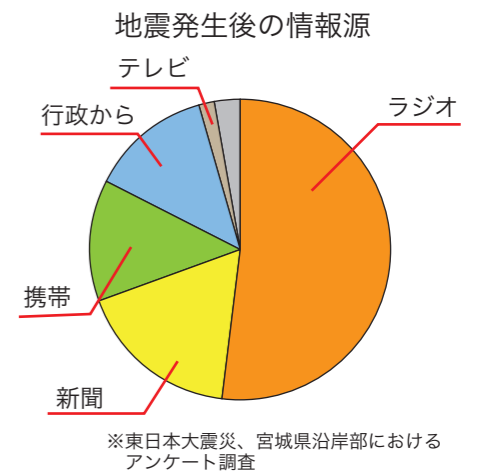
# 市民の命を守るコミュニティFM

阪神淡路大震災の際、壊滅的な被害の地域で市民への避難所や物資情報を伝えることができたのは、唯一コミュニティFMだけでした。それ以降、コミュニティFMが防災情報の伝達に重要であるとの認識が高まり、国内で開局の動きが相次ぎました。2019年12月現在332局にも上り、総務省の指導のもと、毎月のように全国で開局しています。

コミュニティFMは放送エリアを「市域」に限っているからこそ、県域放送やNHK放送には真似のできない、**きめ細やかな放送が可能**です。



実際に東日本大震災では、災害発生直後に利用したメディアとしては、ラジオが68%と最も高く、また発生後1週間で見ると、ラジオは76%へと上昇しています。地震後に大規模な停電やネットワーク障害が発生すると、乾電池でも動作し、また自動車には100%搭載されている「ラジオ」が**唯一の情報手段**となり、コミュニティFMは市民の命綱となります。また近年の異常気象による豪雨や大型台風などでも、他の媒体に比べてとても的確に地域密着の情報を伝えるメディアだと言えます。



※東日本大震災、宮城県沿岸部におけるアンケート調査

	アクセス性	地域性	災害時の信頼性
テレビ	○ 普及率は高く、一部乗用車にも設置されている。	✗ 広域の情報が多く、きめ細やかな放送は不可能。	✗ 停電時には使えない。地震で破損するケースも多。
ラジオ (県域放送)	◎ 非常持ち出し品にも常備。自動車には、ほぼ全て装備。	✗ 広域の情報が多く、きめ細やかな放送は不可能。	◎ 乾電池で使用でき、携帯も可能。
ラジオ (コミュニティFM)	◎ 非常持ち出し品にも常備。自動車には、ほぼ全て装備。	◎ 地域に密着した細やかな情報が放送可能。	◎ 乾電池で使用でき、携帯も可能。
インターネット	✗ ネット回線とパソコンなどの端末が必要。	○ SNSなどで地域情報が入手できるが、デマの心配も。	✗ 大災害時には、つながらない場合が多い。
携帯・スマートフォン	△ スマホの普及率は急速に高まっている。	○ SNSなどで地域情報が入手できるが、デマの心配も。	△ 混雑 (輻輳) してつながらない。充電の問題もあり。

# 飲む防災、飲む防犯事業の特徴

街中において普段から電源に接続されている「自動販売機」に防災ラジオを取り付け、コミュニティFMが放送する各種お知らせ情報を街中に流すことができる仕組みが、**街かど安心安全ラジオ事業「飲む防災、飲む防犯」**です。

	防災スピーカー	ラジオ受信機	飲む防災。飲む防犯。
大規模災害時の緊急放送	◎	○	◎ 内蔵電池により約2日間放送可能
防犯のお知らせ	—	○	◎ 犯罪の起きやすい街角に直接放送
犯罪抑止力	—	△	◎ 不審者情報が放送されるという抑止力
暴風時の聴取性	×	◎	◎ ビルのロビーや駅構内などで放送
設置コスト	×	△	◎ すべて民間のためコストはゼロ

## 停電に強い

バッテリーを内蔵しており、停電が発生しても**約2日間**、情報を伝達可能。中間のケーブルや中継器を必要としないラジオだからこそ、災害時に効果を発揮します。



## 広い範囲…半径100m

自販機を設置した場所の半径約100メートルの範囲に音声を伝えることができます。(ボリューム最大時)



## ボリューム機能

設置箇所に応じて音量を調整可能です。屋外、屋内どちらも設置可能で、病院の待合室や企業のロビーなど普段人が多く集まる場所に設置が効果的です。



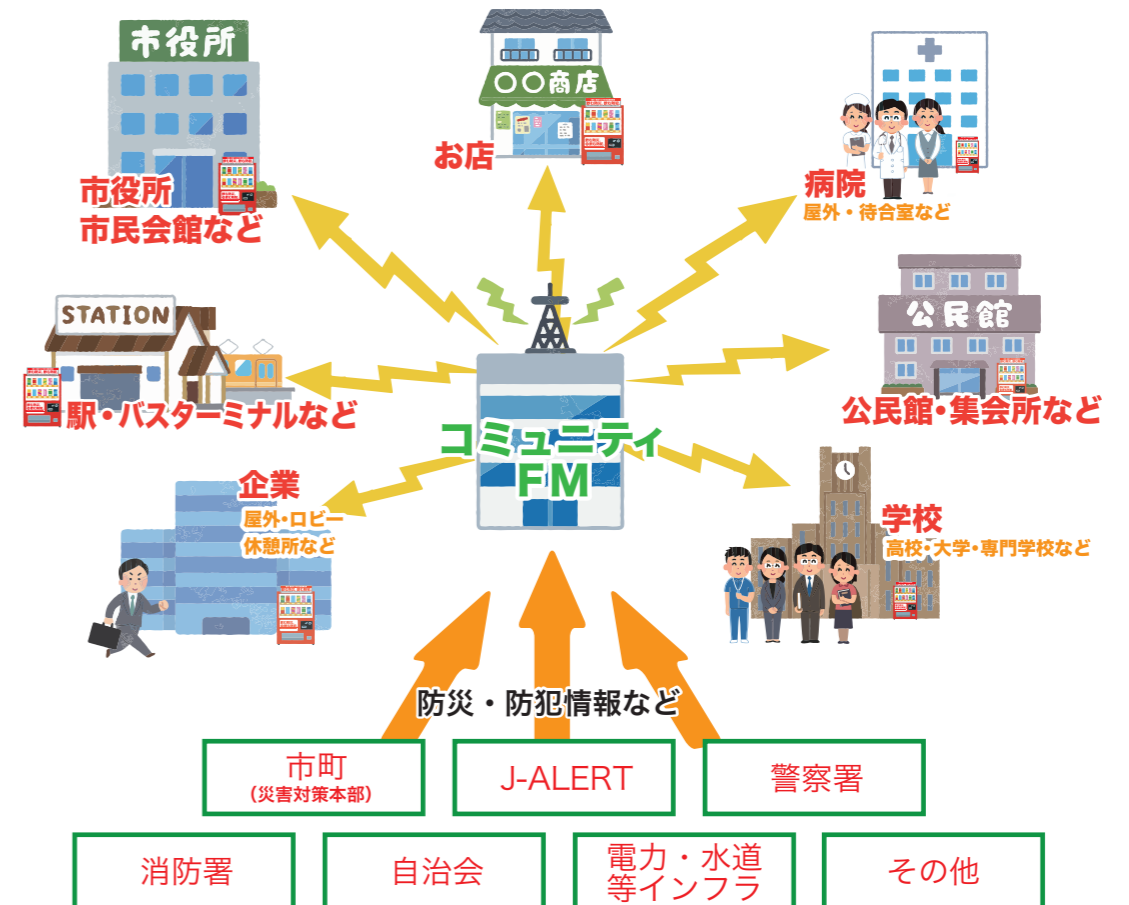
## 費用負担ゼロ

自動販売機の設置、管理、運営、取り付ける防災ラジオ受信機はすべてベンダー会社が負担します。また取扱ドリンクも各種揃えており、設置場所に応じて選ぶことが可能です。



# 設置イメージ

屋内外問わず、人が多く集まる場所に設置することで、市民へ重要な情報を伝達することに役立ちます。



動作イメージを動画でご覧頂けます。スマホで下のQRコードを読み込んでアクセスしてください。



## インバウンド対応

コロナ終息後に再び増加している外国人旅行者への案内にも活用できます。2015年に国が発表した「緊急地震速報の多言語表現辞典」や「情報難民ゼロプロジェクト」等でも言われている、非常時の外国人への情報伝達手段としての活用も期待できます。

